

No.2822

東南アジア考古学会 40 周年記念大会国際シンポジウム

「東南アジア・オセアニアの世界遺産と考古学」

鶴見大学文学部文化財学科 准教授

田中 和彦

東南アジア考古学会は、設立 40 周年を記念して「東南アジア・オセアニアの世界遺産と考古学」というテーマで 2017 年 12 月 16 日、17 日にシンポジウムを行うこととなった。このテーマでシンポジウムを行う時に何より重要なことは、世界遺産の調査、研究、保護、活用に実際に携わっている東南アジアの現地研究者の声を聴くことである。幸いにして貴財団の平成 29 年度国際交流助成により、東南アジア 4 箇国から 4 名の研究者を招聘することができた。すなわち、ベトナムから考古学院長のグエン・ザン・ハイ (Nguyen Giang Hai) 博士、カンボジアからアプサラ機構遺跡・考古局長のリー・バンナ (Ly Vanna) 博士、マレーシアからマレーシア科学大学世界考古学調査センター所長のムフタル・サイディン (Mokhtar Saidin) 博士、フィリピンからフィリピン国立博物館副館長のエンジェル・バウティスタ (Angel P. Bautista) 氏である。

一方、上記の東南アジアの研究者たちに日本の世界遺産の登録、活用の問題点や世界遺産に関わる日本人研究者の活動を知ってもらうことも重要である。そうした観点から岩手県平泉町の八重樫忠郎氏に平泉の世界遺産について登録に至るまでの経緯等を報告して頂いた。また、オセアニアの世界遺産について、ミクロネシア連邦のナンマトル遺跡の調査に携わってきた関西外国語大学国際文化研究所の片岡修氏に報告して頂き、国立台湾大学の坂井隆博士に「東南アジアの世界遺産と問題点」という基調講演を行って頂いた。また、鹿児島大学名誉教授で本学会第 5 代会長を務められた新田栄治氏に「日本における東南アジア研究の歴史と東南アジア考古学会の 40 年」という記念講演を行って頂いた。これらの日本人研究者の招聘も貴財団の助成により可能となり、充実したシンポジウムを行うことができた。

また、大会に合わせて冊子『東南アジアの世界遺産と考古学』(64 頁) を貴財団の助成により刊行することができた。また、大会会場で東南アジアの世界遺産の写真展を開催した。